

第17回 広島大学心理臨床セミナー

「出産・育児にまつわる不安と虐待 —不安と困難を『子に出会うきっかけ』にするヒント」

松下姫歌 (広島大学大学院教育学研究科)

2010年5月、第17回広島大学心理臨床セミナーは、「出産・育児にまつわる不安と虐待——不安と困難を『子に出会うきっかけ』にするヒント」をテーマに、臨床心理士、臨床心理学を学ぶ学生、保育・福祉・教育関係者および一般の方を対象に開催し、非常に沢山のご参加を頂いた。

今日、出産や育児にまつわる不安を抱えている方、実際に育児困難をきたす状態にある方がたくさんおられる。子をもつ親や親になる可能性がある人だけでなく、親子をとりまく周囲の人びとも、育児にまつわる様々な事柄をどう理解すればよいのか、不安をもつことが増えている。その点は、臨床心理士や保育士、教師など、子どもやその親に関わり、子や親を支援する専門職の立場にある人びとも例外ではない。現在、「虐待」の概念が広く知られるところとなった。概念は問題の的確な理解につながるかたちで用いられる必要がある。しかし、不安のために概念に囚われ、何でも「虐待」につながるものとして見てしまい、問題の可能性をラベリングして恐れているだけ、被害者と加害者を作っただけという事態に陥ってしまつては、悪循環になってしまう可能性がある。

本セミナーは、出産や育児にまつわる不安は、そもそも通常おこりうることなのだ、という観点に立ち戻つて、小児科医師・助産師・臨床心理士というさまざまな立場からお話をうかがい、出産・育児にまつわる不安や困難が、「子どもをよく見て関わるきっかけ」につながっていくような支援を考えることを主眼としたい、という思いから筆者が企画し開催させて頂いた。

講師には、有井小児科医院院長・京都造形芸術大学芸術学部こども芸術学科教授である有井悦子先生、岡山協立病院の助産師である久世恵美子先生、情緒障害児短期治療施設 横浜いずみ学園の臨床心理士である井上真先生の3名の先生方をお招きした。今回は、それぞれのご専門の立場から豊かな実践経験を通して見つめてこられた問題意識について、じっくりとお話をうかがいながら考える時間をもつという主旨で、90分ずつご講演頂いた。各々の先生方の深い眼差しによって描き出される、親あるいは親になろうとする人と子が抱える不安や困難の実態と、その不安や困難に寄り添い、常に新たな側面を見出していく姿勢に、参加者の方々も引き込まれるように聴き入っておられ、静かな熱を帯びた空間の中で、それぞれの90分があつと言う間に感じられた。

小児科医師、助産師、福祉施設の臨床心理士と目を向ける領域も立場も違えば、そこで展開される親子の問題や不安・困難の現れ方も異なる。しかし、それぞれの問題に対して深く心を関与させていくと、我々が見出し関わっていくべき本質のようなものは、意外に重なっていると思われた。